

## オスプレイの日本国内での飛行禁止を求める執行委員長見解

11月29日、米軍岩国基地から米軍嘉手納基地に向かっていた米軍横田基地所属のオスプレイ1機が、鹿児島県屋久島沖の海上に墜落した。捜索の結果、乗組員8人全員の死亡が認定された。

過去には、2016年12月に米海兵隊普天間基地所属のオスプレイが、空中給油機に接触し沖縄県名護市沖に墜落している。しかし、事故後も米軍所属のオスプレイは、日本各地の民間空港に緊急着陸を繰り返している。

また、これまでも米軍機は日本上空で規制を無視した飛行を行っており、1959年の沖縄県石川市（現うるま市）の宮森小学校への墜落事故をはじめ、多くの事故で地域住民の命を奪っている。

もし今回の事故が、住民の生活圏で起きていたとしたら甚大な人的被害が出ていたことになる。

米空軍当局は、今回の事故から8日後に、すべてのオスプレイの飛行停止を行った。このことは、今回の事故は、パイロットの操作ミスではなく、オスプレイの機体そのものに構造的欠陥があることを証明している。

オスプレイは、開発段階から安全性が懸念されており、数々の事故を起こしているにもかかわらず、米軍は、普天間基地と横田基地にオスプレイを配備している。また、自衛隊も木更津駐屯地に配備しており、今後、佐賀空港への配備も計画されている。

市教組は、2012年に普天間基地にオスプレイが配備された時より、その危険性を指摘している。今回の墜落事故を受けて、地域住民の命を守るとともに、平和な住民生活が送れるよう、一刻も早く日本国内でのオスプレイの飛行を禁止するよう日本政府に強く求める。

2023年12月 8日

大阪市教職員組合

執行委員長 松岡 誠